大阪公立大学 Osaka Metropolitan University 学術情報リポジトリ

女性学研究センター年次報告・2004年度

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2010-07-01
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 足立, 眞理子, 伊田, 久美子
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/10101

女性学研究センター年次報告・2004年度

1．運営体制

所長　丸山高司（学長）

主任　足立眞理子（専任研究員）

兼任研究員　青木賜鶴子・西田正宏（人文社会学部人文学科日本語日本文学専攻）

村田京子（人文社会学部人文学科国際文化専攻）

伊田久美子・熊安貴美江（本年度は在外研修中）・谷村覚・前川真行（人文社会学部人間関係学科）

西山淳子（理学部環境理学科）

大内本夫（理学部応用数学科）

女性学研究センターでは、年間事業や予算の基本方針はセンター会議で審議し、さらに女性学研究センター運営委員会での討議を経て、運営を行っている。

2．授業

専門教育科目（人文社会学部人文学科国際文化専攻・人間関係学科）

「女性学演習Ⅲ」「女性学演習Ⅳ」（担当　足立眞理子・前後期各２単位）

「女性学概論Ⅰ」「女性学概論Ⅱ」（担当　足立眞理子・前後期各２単位）

教養科目

「女性学入門Ⅰ」「女性学入門Ⅱ」

学内の研究員・教員と学外講師がオムニバス形式で講義を行い、ほかに読書案内、小グループ・ディスカッション等を実施。（前後期各２単位）

3．公開講座

「女性学入門Ⅰ・Ⅱ」「女性学概論」（「女性学概論」は公開講座では通年科目）を授業公開講座とし、それぞれ府民15名（女性）が参加した。

「女性学入門Ⅰ・Ⅱ」のうち、年10回の学外講師による講演は、府民教養講座として公開し、50名（男女）が参加した。

4．図書・文献資料の収集

引き続き、外国語文献資料ならびに新刊邦語文献を中心に収集した。外国語雑誌講読も継続して行った。図書館司書の方々の協力があったことを特に記しておく。

5．女性学研究コロキウム

第1回（2004年5月29日）

「学校教育とセクシュアル・ハラスメント」

報告　箕面市人権教育研究会　共・生の教育専門部会

段林和江さん（弁護士）、本多利子さん（臨床心理士）

（本誌掲載「教職員の逸脱に対するコントロール装置の構築―箕面市教職員により作成された『スクール・セクシャル・ハラスメント防止マニュアル』の意義―」玉井眞理子を参照）

第2回（2004年7月22日）

「韓国における高学歴女性の就業問題の構造的要因とその是正策」

報告　春木育美（立教大学・東京女子大学）（本誌掲載論文参照）

第3回（2005年3月16日）

「女はなぜ貧乏なのか」

報告　竹信三恵子（ジャーナリスト）

6．女性学連続講演会、連続セミナー

第9期「『雇用労働』とジェンダー再配置」

（2004年6月5日～7月3日の各土曜日、全5回）

各回の講師とテーマは次の通りであった。

伊田久美子「雇用の多様化をめぐって―『愛の労働』の新たな展開」

藤原千沙（岩手大学）「雇用と福祉」

三山雅子（同志社大学）「非正規雇用とジェンダー」

中野麻美（弁護士）「労働とジェンダー」
足立眞理子「雇用と失業のあいだ」
講演会終了後、連続講演会参加者のうち、20名によって、セミナーを実施した。

7．国際交流事業

女性学研究センター　シンポジウム
「東アジアの女性政策主流化に向けて —韓国と日本の政策比較を中心に—」
（2004年11月13日）
講演
「韓国女性政策の現況と課題」キム・ソンウク（梨花女子大学）（本誌掲載）
「1990年代以降の韓国女性政策の変化とその背景 —生活者の視点から—」
田端かや（日本国際交流基金ソウル文化センター）（本誌掲載）
「男女共同参画社会の実現に向けて」大森崇利（内閣府男女共同参画局）
コメント：状況の類似と政策動向の違い　江原由美子（東京都立大学）
（本誌掲載）

8．男女共同参画政策推進のための研修事業

女性学研究センター　シンポジウム
「地方自治・ＮＰＯ・女性」
（2004年11月14日）
講演
「地方自治・ＮＰＯ・女性」上野千鶴子（東京大学）（本誌掲載）
講演の後、キム・ソンウク、足立眞理子からのコメント、ならびに、フロアとの活発な応答がおこなわれた。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今号は大阪女子大学女性学研究センターとしての最後の『女性学研究』となります。1992年の第１号から今期の第12号まで、学内外の多くの方々の協力に支えられて刊行することができました。お名前をあげることはし

ませんが、この場を借りてすべての関係者の皆様に感謝の意を表したいと思います。2005年度からは大阪府立大学女性学研究センターとして新たな活動を開始することになります。共学大学のセンターとして、活動の一層の充実をめざしていきたいと考えております。皆様にはセンターの歩みに今後ともご同伴くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

（足立眞理子、伊田久美子）